

第1回・2017

尾道映画祭

ONOMICHI FILM FESTIVAL

[会場] シネマ尾道 [期間] 2017.3/18(土)~19(日)

後援/尾道市、尾道市教育委員会、尾道市文化協会、尾道商工会議所、広島経済同友会尾道支部、尾道ライオンズクラブ、尾道瑠璃ライオンズクラブ、(一社)尾道観光協会、(一社)尾道青年会議所、中国新聞備後本社、山陽日日新聞社、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、ちゅびCOMおのみち、広島エフエム放送、エフエムふくやま、尾道エフエム放送(予定)
主催/尾道映画祭実行委員会



©2015 平田オリザ・講談社 / フジテレビジョン 東映 ROBOT 電通 講談社 バルコ



人が集う、尾道
心が集う、尾道
映画が集う、尾道



©2016 「フィストラクション・ベイビーズ」製作委員会



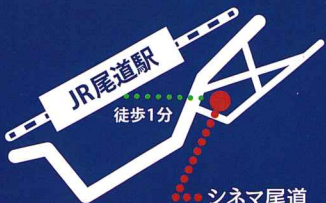
©Snow Woman Film Partners



©2016 映画「潮に立つ」製作委員会 / COMME DES CINEMAS



©2016 FM Films, LLC. All Rights Reserved



前売券はシネマ尾道にて発売 お問い合わせ/ ☎ 0848-24-8222

尾道映画祭実行委員会(シネマ尾道内)
販売時間 / 10:00 ~ 19:00

- 3月18日(土) フリーパス券 前売券 2,000円・当日券 2,300円 (「幕が上がる」「沈黙サイレンス」はご覧いただけません)
- 3月19日(日) 「幕が上がる」鑑賞券 前売券 2,000円・当日券 2,300円 *「幕が上がる」のみ、全席指定。お一人様最大4枚まで(予定枚数で販売終了)

* 3月19日「沈黙 -サイレンス」は、前売券はございません。当日券のみの販売になります。
(当日券料金/一般 1,800円、大学・専門学校生 1,500円、シニア(60歳以上) 1,100円、高校生以下 1,000円、シネマ尾道会員料金適用あり)
* チケット販売は、シネマ尾道窓口のみ。お電話、メール、インターネットなどからのご予約は一切お受けいたしません。(3月18日券・3月19日券ともに)

3月11日(土)
10:00 発売開始

3.18(土)

尾道ロケ作品や話題作、学生自主作品など

幅広いセレクションで幕開け

9:30 開会式

9:45
12:05



監督 杉野 希妃
出演 杉野 希妃、青木 崇高、
山口 まゆ、佐野 史郎
2016/日本/96分

©Snow Woman Film Partners

小泉八雲が著した「雪女」を、独自の解釈で国際派映画人、杉野希妃が映画化。尾道市を中心に、全編を広島県内で撮影。東京国際映画祭コンペティション部門に出品。ある時代、ある山の奥深く、吹雪の夜。猟師の巳之吉は、山小屋で、雪女が仲間の茂作の命を奪う姿を目撃してしまう。雪女は「この事を口外したら、お前の命を奪う」と言い残して消え去る。翌年、茂作の一周忌法要の帰り道に、巳之吉は美しい女ユキと出会う。やがて二人は結婚し、娘ウメが生まれる。

[オープニング作品] ~尾道・府中・三次・高野ロケ~

『雪女』

2017年全国公開

先行上映



上映後トーク Guest



杉野 希妃 監督



佐野 史郎さん

尾道ロケ最新作品が映画祭のオープニングを飾ります。広島出身の女優で監督も務めた杉野希妃さんと、本作にご出演されたシネマ尾道の常連ゲスト佐野史郎さんをゲストお招きして、尾道ロケのエピソードをお聞きます。

12:20
14:50



©2016 映画「淵に立つ」製作委員会 / COMME DES CINEMAS

[2016年若手監督ベストセレクション]

『淵に立つ』

カンヌ国際映画祭「ある視点」部門審査員賞

監督 深田 晃司
出演 浅野 忠信、古館 寛治、筒井 真理子、
太賀、三浦 貴大
2016/日本、フランス/119分

カンヌが、世界が驚いた日本の新世代・深田晃司監督と『淵に立つ』。この話題作を「いま最も見なければならぬ作品」と評するのは人気の映画評論家で尾道観光大志でもあるヴィヴィアン佐藤さん。映画の魅力に深く迫ります。



上映後トーク

Guest



ヴィヴィアン佐藤さん

[プロフィール]

美術家、文筆家、非建築家、映画評論家、ドラッグクイーン、プロモーター。ジャンルを横断していき独自の見解で何事をも分析。自身の作品制作発表のみならず、「同時代性」をキーワードに独自の芸術論で批評 / プロモーション活動も展開している。野宮真貴、故山口小夜子、故野田風、古澤巖など個性派のアーティストとの仕事も多い。青森県七戸町の町興しコンサルタント担当、広島県尾道市観光大志。

『ほとりの朔子』『さようなら』の深田晃司監督が、カンヌ国際映画祭「ある視点」部門審査員特別賞を受賞した人間ドラマ。

郊外で小さな金属加工工場を営む鈴岡家は、夫・利雄、妻・章江、10歳の娘・蛍の三人家族。平穏な毎日を送るごく平凡な家族の前に、ある日、利雄の旧い知人で、最近まで服役していた八坂草太郎が現れる。そして、ある時、八坂は一家に残酷な爪痕を残して姿を消す。

15:05
17:25



©2016 「ディストラクション・ベイビーズ」製作委員会

[2016年若手監督ベストセレクション]

『ディストラクション・ベイビーズ』

監督 真利子 哲也
出演 柳楽 優弥、菅田 将暉、小松 菜奈、村上 虹郎、池松 壮亮
2016/日本/108分

R15+



上映後トーク Guest



真利子 哲也 監督

新鋭、真利子哲也が生み出した刺激的で挑発的な衝撃作。監督の磁力と惹き合うように、いま最も注目される若手・新鋭俳優陣が集結。

松山市西部の小さな港町。海沿いの造船所のプレハブ小屋に、ふたりきりで暮らす泰良と弟の将太。日々、喧嘩に明け暮れていた泰良は、ある日を境に姿を消す。

それからしばらく経ち、松山の中心街。喧嘩を仕掛けては、逆に打ちのめされても食い下がる泰良の姿があった。果たして兄弟は再会できるのか、若者たちの凶行のゆくえは。

、いま語って欲しい映画を一堂にラインナップしました。

3.19(日)

尾道へのリスペクト溢れる日本映画も！
ハリウッドが日本を見つめた作品も！

11:00
13:50



©2015 平田オリザ・講談社/フジテレビジョン 東映 ROBOT 電通 講談社 バルコ

【特別招待作品】
『幕が上がる』

監督 本広 克行
原作 平田 オリザ
出演 百田 夏菜子、玉井 詩織、高城 れに、
有安 杏果、佐々木 彩夏、黒木 華
2015/日本/119分

世界的な劇作家であり演出家の平田オリザの原作を人気アイドルももいるクローバーZを主演に迎え、本広克行監督が映画化。地区予選敗退。最後の大会を終えた先輩たちに代わり、部長として富士ヶ丘高校の演劇部をまとめることになった高橋さおり。「負けたらやなの!」と部員の前で意気込むさおりだが、悩める日々が続く。目指すは全国大会。富士ヶ丘高校演劇部は、見たことも行ったこともない、無限の可能性に挑もうとしていた。

全席指定

3/18(土)フリーパスでは入場できません。
3/19(日)『幕が上がる』鑑賞券が必要です。

『幕が上がる』鑑賞券ご購入の際の注意事項

- ・『幕が上がる』のみ、全席指定、お一人様最大4枚までご購入いただけます。
- ・予定枚数に達した場合、チケット販売を終了いたします。



上映後トーク Guest



本広 克行 監督



百田 夏菜子さん

本広克行監督が尾道映画を意識してつくったと公言する青春映画の金字塔。本広監督が憧れる地でのトークは、なんと、人気アイドル「ももクロ」のメンバーで本作の主人公を務める百田夏菜子さんとの登壇。いま、伝説の幕が上がります！

14:05
17:20



©2016 FM Films, LLC. All Rights Reserved.

PG12

【クロージング作品】
『沈黙 -サイレンス-』

監督 マーティン・スコセッシ
原作 遠藤 周作
出演 アンドリュー・ガーフィールド、
浅野 忠信、塚本 晋也
2016/アメリカ、イタリア、メキシコ/162分

戦後日本文学の金字塔にして、世界20カ国以上で翻訳され、今も読み継がれている遠藤周作『沈黙』を巨匠マーティン・スコセッシ監督が映画化。17世紀、江戸初期。幕府による激しいキリシタン弾圧下の長崎。日本で捕えられ棄教したとされる高名な宣教師フェレイラを追い、弟子のロドリゴとガルベは日本人キチジローの手引きでマカオから長崎へと潜入する。日本にたどりついた彼らは想像を絶する光景に驚愕しつつも、その中で弾圧を逃れた“隠れキリシタン”と呼ばれる日本人らと出会う。

要当日券

3/18(土)フリーパス、3/19(日)『幕が上がる』鑑賞券では入場できません。別途、当日券が必要です。

映画監督で俳優としても活躍する塚本晋也さんが、本作出演のエピソードを語ります。巨匠マーティン・スコセッシ監督の演出や日本人俳優として参加したハリウッド映画の撮影現場で感じたことなど、興味深いエピソードにご期待ください。



上映後トーク

Guest



塚本 晋也さん

入場無料

シンポジウムはチケットなしでもご入場いただけます

17:35 シンポジウム 「地方都市の映画と映画祭、その現在と未来」

- 19:05 パネリスト
- 本広 克行 (映画監督・さめぎ映画祭ディレクター)
 - 杉野 希妃 (映画監督・プロデューサー・女優)
 - 志尾 睦子 (高崎映画祭プロデューサー)
 - 小川 孝雄 (岡山映画祭実行委員会代表)
- コーディネーター 河本 清順 (尾道映画祭ディレクター)

19:05 閉会式 (19:30 終了予定)

17:40 学生自主制作作品上映 (18:40 終了予定)

■コメンタリーゲスト/杉野 希妃監督、ヴィヴィアン佐藤さん

入場無料

『ねーぶるず。』はらだ ともよ (尾道市立大学)	2016	1'06"	『痲癩だま(かんしゃくだま)』富田 純加 (尾道市立大学)	2017	3'11"
『3ぶんTimer』原田 智代 (尾道市立大学)	2017	3'05"	『FERRYBEATS』服部 愛 (尾道市立大学)	2017	2'00"
『あまのうみに、くものなみたち』山口 祐佳 (尾道市立大学)	2017	2'25"	『竹取物語』森田 健一郎 (福山大学)	2016	13'36"
『恐竜姫』城戸 愛咲美 (尾道市立大学)	2017	2'19"	『そしてバラは微笑む』共同制作 (福山大学)	2016	9'05"
『のんねむくん』富田 純加 (尾道市立大学)	2016	3'13"	『恋の先にあるもの』藤馬 健伍 (福山大学)	2016	9'45"

映画を、尾道を愛する、多彩なゲストの皆さんをお迎えします

映画『雪女』上映後トーク



杉野 希妃さん
(監督・女優)

1984年広島県生まれ。慶應義塾大学経済学部在学中にソウルに留学。2005年、韓国映画『まぶしい一日』宝島編主演で映画デビューし、続けて『絶対の愛』(06/キム・ギドク監督)に出演。帰国後『クリアネス』(08/篠原哲雄監督)に主演。2008年から映画制作にも乗り出し、主演兼プロデュースした『歓待』(10/深田晃司監督)が第23回東京国際映画祭日本映画・ある視点部門作品賞などを受賞した他、100以上の映画祭からオファー殺到。第33回ヨコハマ映画祭の最優秀新人賞、おおさかシネマフェスティバル2012の新人女優賞を受賞。『おだやかな日常』(12/内田伸輝監督)が第17回釜山国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭、トライベッカ映画祭などに招待され、沖繩国際映画祭クリエイターズ・ファクトリー部門で、最優秀ニュークリエイター賞と最優秀主演女優賞、日本映画プロフェッショナル大賞の新進プロデューサー賞を受賞した。2011年の第24回東京国際映画祭で、2013年の第15回台北国際映画祭で特集上映が生まれ、2014年の第43回ロッテルダム国際映画祭では日本初の審査員に選ばれる。『ほとりの朔子』(13/深田晃司監督)は、第35回ナント三大陸映画祭でグランプリ「金の気球賞」と「若い審査員賞」をダブル受賞。2014年に、監督第1作『マンガ肉と僕』が東京国際映画祭やエディンバラ国際映画祭に、監督第2作『欲動』がミュンヘン国際映画祭、タリン・ブラックナイト映画祭といった数々の映画祭に正式招待され、第19回釜山国際映画祭の新人監督賞を受賞。監督主演作『雪女』が、2016年の第29回東京国際映画祭コンペティション部門に選出。



佐野 史郎さん
(俳優)

1955年山梨県生まれ、島根県松江市育ち。1975年、劇団シェイクスピア・シアターの創立に参加。1980年より劇団状況劇場(唐十郎主宰)を経て、1986年林海象監督『夢みるように眠りたい』で映画主演デビュー。1992年テレビドラマ『ずっとあなたが好きだった』(TBS)のマザコン男、“冬彦”役が社会現象となる。1999年、映画『カラオケ』で初監督。2006年、植田正治の写真をモンタージュした映像作品『つゆのひとしづく』(DVD/2006年/東映アニメーション)を監督。アレクサンドル・ゾクローフ監督『太陽』、カン・ジェギョ監督『マイウェイ』など海外作品にも出演。テレビや映画、舞台への出演の他、音楽活動、本の執筆もこなし、多方面で活躍している。これまでの出演作品は110本を超える。幼少期から幻想怪奇の世界に親しみ、松江ゆかりのラフカディオ・ハーン=小泉八雲にも惹かれていた。映像の仕事にたずさわるようになり、ますます小泉八雲作品と関わる機会も増え、2006年に松江で始まった小泉八雲の朗読は今やライフワークとなっている。近年、朗読や舞台挨拶、『雪女』の撮影などで尾道に訪れる機会が増えている。

映画『タイムトラベラー』上映後トーク



真利子 哲也さん
(監督)

1981年、東京都生まれ。法政大学在学中に8mmフィルムで自主制作した短篇『極東のマンション』『マリコ三十騎』が、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭で2年連続のグランプリ受賞、世界で最も歴史あるオーバーハウゼン国際短編映画祭で映画祭賞を受賞など、国内外で注目を浴びる。東京芸術大学大学院の修了作品『イエローキッド』は、バンクーバー国際映画祭をはじめ各国の映画祭で高い評価を受け、学生映画として異例の劇場公開。毎日映画コンクールで新人賞、高崎映画祭、日本映画プロフェッショナル大賞にて監督賞など受賞多数。続く『NINIFUNI』は、42分の中編ながらロカルノ国際映画祭で特別作品として選出され各地から反響を呼び、劇場公開となる。またオムニバス映画の1編『FUN FAIR』ではマレーシアにて撮影を敢行。沖繩国際映画祭にて発表後、国内で劇場公開され、話題を集める。その後ドラマやMVなど活動を広げながら、意欲的に作品を発表。『ディストラクション・ベイビーズ』は、満を持してのメジャーデビュー作となり、キネマ旬報ベスト・テン主演男優賞など数々の栄冠に輝いている。

映画『幕が上がる』上映後トーク



本広 克行さん
(監督)

1965年生まれ、香川県出身。CM、深夜番組、情報バラエティ、ドラマ、ドキュメンタリー番組の制作や演出を担当後、1996年、映画『7月7日、晴れ』にて劇場デビュー。2003年に公開された映画『踊る大捜査線 THE MOVIE2 レインボーブリッジを封鎖せよ!』では、日本映画(実写)興行収入記録歴代一位の座を獲得。その後も『踊る大捜査線シリーズ』『サマータイムマシン・ブルース』『UDON』等、数々の作品を手がける。2007年演劇プロジェクトFABRICAを立ち上げ演出を担当。2010年、平田オリザ原作、岩井秀人脚本、舞台『演劇入門』へ演出参加。近年はAKB48『Everyday、カチューシャ』PV、アニメ『PSYCHO-PASS サイコパス』総監督、『攻殻機動隊ARISE border: less project』プロジェクト・プロデューサー、2013年より「さぬき映画祭」ディレクターと活躍は多岐に渡る。ネスレシアター on YouTubeのショートムービー『Regret』は300万再生を超えている。近作にLIXILブランドシネマ「ほっとファーザー」Nescafeコンセプトシネマ「踊る大宣伝会議」あるいは私は如何にして踊るのを止めてゲームのルールを変えるに至ったかの総監督を務めている。2015年、平田オリザ原作・ももいろクローバーZ主演の映画『幕が上がる』を監督、同作の舞台版でも演出を担当した。



百田 夏菜子さん
(主演)

2009年、5人組ガールズユニット「ももいろクローバー(現・ももいろクローバーZ)」のメンバーとしてCDデビュー。「NHK紅白歌合戦」出場や国立競技場でのコンサート開催などを果たした。2016年9月7日にニューシングル『ザ・ゴールデン・ヒストリー』をリリースし、11月にはアメリカツアー「アメリカ横断ウルトラライブ」を成功させる。女優としての主な出演作は映画『幕が上がる』(2015年・主演)など。NHKの連続テレビ小説『べっぴんさん』にヒロインの女学校時代の同級生・多田良子役に出演。

映画『沈黙』上映後トーク



塚本 晋也さん
(俳優・映画監督)

1960年1月1日、東京・渋谷生まれ。14歳で初めて8ミリカメラを手にする。87年「電柱小僧の冒険」でPFFグランプリ受賞。89年「鉄男」で劇場映画デビューと同時に、ローマ国際ファンタスティック映画祭グランプリ受賞。主な作品に、「東京フィスト」「パレット・パレエ」「双生児」「六月の蛇」「ヴィタール」「悪夢探偵」「KOTOKO」「野火」など。製作、監督、脚本、編集、照明、美術、編集などすべてに関与して作りあげる作品は、国内、海外で数多くの賞を受賞。北野武監督作「HANA-BI」がグランプリを受賞した97年にはベネチア映画祭で審査員をつとめ、05年にも2度目の審査員としてベネチア映画祭に参加している。俳優としても活躍。監督作のほとんどに出演するほか、他監督の作品にも多く出演。「とらばいゆ」「クロエ」「溺れる人」「殺し屋1」で02年毎日映画コンクール男優助演賞を受賞。「野火」で15年、同コンクールで男優主演賞を受賞。その他に庵野秀明「シン・ゴジラ」、マーティン・スコセッシ監督「沈黙-サイレンス-」など。他、ナレーターとしての仕事も多い。尾道へは「野火」の舞台挨拶以来となる。

映画撮影等、諸般の事情により当日ゲストの来場が中止となる場合がございます。